

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（茨城県教育委員会）

1. テーマ

学校生活における適応能力の向上を図るための放課後補充指導等の在り方
～発達障害の可能性のある児童の早期支援や二次障害の予防と対応に関する実践研究～

2. 問題意識・提案背景

本県では、全校種の教員を対象とした発達障害に関する研修会により、発達障害に関する教員の一定の知識を高めてきたが、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童に対する指導方法の工夫・改善、放課後等を活用した個別指導の在り方、適切な実態把握による早期支援等について研究を進めていく必要がある。

そこで、県では、学習面や生活面で発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童が全児童数の1～2割と推定される小学校2校を研究指定校とした。

指定校においては、学校全体で発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じた指導や支援を工夫・改善すること、放課後等の学習支援や対人関係のスキルアップを促す指導等に関すること、適切な実態把握による早期支援及び教職員の専門性向上を図るための実践研究を進めていくこととした。

3. 指定校について

(1) 大洗町立大貫小学校

（平成26年5月1日現在）

指定校名：大洗町立大貫小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	24	1	39	2	31	1	42	2	37	1	30	1
特別支援学級	1		1		0		5		1		6	
通級による指導の対象者数	1		2		0		3		4		3	
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	嘱託教諭	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	13	1	2	1	1	1	0	2	23		

(2) 稲敷市立高田小学校

（平成26年5月1日現在）

指定校名：稲敷市立高田小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	26	1	19	1	23	1	26	1	21	3	19	3
特別支援学級	2		0		2		0		3		3	
通級による指導の対象者数	0		0		0		0		0		0	
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	嘱託教諭	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	9	1	0	0	1	3	0	3	19		

4. 指定校における取組概要

(1) 大洗町立大貫小学校

通常の学級に在籍し、学習面や行動面で何らかの困難を示す発達障害の可能性のある児童に対して、ソーシャルスキルトレーニングをはじめとする自己肯定感を高めるための活動を工夫すると共に、授業や放課後等の学習補充を行い、達成感や成就感を実感できるようにする。特に、学習の流れや学習時間の提示、指示や発問・板書・教室環境の工夫をとおして、児童が「わかった」「できた」を実感できる授業改善を図るための実践を行う。

また、発達障害の可能性のある児童の早期支援、二次障害の予防と対応について、発達障害支援アドバイザーや専門家等の助言を得ながら、教職員の専門性を高めると共に、学校全体で取り組む校内支援体制の充実を図る。

(2) 稲敷市立高田小学校

1日の流れ、1時間の流れを示し、見通しをもたせることで、生活面、学習面ともに活動への意欲を喚起し、自主性を育てる。つまずきや習熟度に対応したワークシートの工夫や、児童の実態と学習内容を踏まえた学習形態の工夫により、積極的に学習に取り組む態度を養う。また、刺激の少ない教室環境の工夫、図書コーナーの整備などにより、児童が生活しやすい環境作りを目指し、学習への集中力を高める。放課後等の補充指導により、学習面や生活面で困った気持ちをもっていた児童の自己肯定感を高め、学習への集中力が持続するようにする。

さらに、気になる児童の実態把握チェックリストを通して全職員での共通理解を図り、ケース会議で支援方法を検討し関係機関との連携により適切な支援を進める。

5. 主な成果

(1) 大洗町立大貫小学校

教職員が児童の実態にあった課題の提示、児童に伝わりやすい指示、前向きな言葉掛けをすることで、児童の学習意欲を高めることに効果的であると実感できた。また、その都度、個別の対応をすることで不適切な行動(離席、乱暴な言動等)が減り、通常の学級での活動に適應できる場面が増えてきている。

さらに、集団の中では、自分の気持ちを上手に表現することが難しい児童には、個別に対応する時間(休み時間・給食前・放課後等)をつくることで、少しずつではあるが自分の気持ちを表現しようとするものが多くなってきた。

教職員間の連携については、「プランニングシート」を作ることで、情報交換が短時間でできるようになり、共通理解を図りながら支援ができるようになってきた。

(2) 稲敷市立高田小学校

放課後等の時間を使って、学習の補充指導をし、自己肯定感を育ててきたことから、児童は授業での離席が少なくなり学習への集中力が持続するようになった。

実態把握チェックリストを活用し、児童の学習面や行動面の実態や支援方法等について全教職員で確認したことで、問題行動等に対する共通理解を通して組織的に対応することができた。

教職員が個に応じた指導や支援を心がけるようになり、児童の障害特性等に応じた対応がとれるようになった。また、保護者も子どもの成長を実感することで、学校に対する協力的な姿勢が高まった。

6. 今後の課題と対応

(1) 大洗町立大貫小学校

学習面や行動面で何らかの困難を示す児童が、日々の授業において「わかった」「できた」を実感できるようにするためには、ICT機器の活用が効果的であり、ICT機器を活用した授業づくりについて研究を進めていく必要がある。

また、児童の教育的ニーズに応じた放課後等の学習補充を行うとともに、ソーシャルスキルトレーニングなどを活用し、通常の学級での活動に取り組むための支援の在り方について工夫していく必要がある。

さらに、児童の実態把握を適切に行い客観的なデータを得ることで、早期支援の方法について教職員間で連携を図るとともに、保護者に対しても早期支援に対する理解を深め、一貫した校内体制を整えることができるようにする必要がある。

(2) 稲敷市立高田小学校

チェックリストを用いた実態把握後の適切な支援方法について、教職員で進めているが、さらに詳細に話し合い、支援の方向性について検討する機会を適宜設定する必要がある。

今年度、ユニバーサルデザインの視点から一人一人の児童の実態を考慮した授業改善、環境作りなどを進めてきたことにより、児童は学習に見通しをもつことができ、課題に集中して取り組んだり、落ち着いた授業態度で学習に取り組んだりするなどの変容が見られた。今後は、ユニバーサルデザインの環境整備をより一層広げ、授業においては、内容を深めるようにしていく必要がある。

さらに、教職員の特別支援教育に関する専門性と指導力を高め、児童理解・支援に努めていく必要がある。

7. 問い合わせ先

組織名：茨城県教育委員会

- | | |
|-------------|----------------------------|
| (1) 担当部署 | 茨城県教育庁特別支援教育課指導担当 |
| (2) 所在地 | 茨城県水戸市笠原町 978 番 6 |
| (3) 電話番号 | 029-301-5280 |
| (4) FAX 番号 | 029-301-5289 |
| (5) メールアドレス | tokukyo@pref.ibaraki.lg.jp |